

大学入試制度改革に対する 自由記述回答集

高大接続に関する調査

速報リリース 補足資料

2014. 1. 23

ベネッセ教育総合研究所

調査概要

| | |
|-------|---|
| 名称 | 高大接続に関する調査 |
| 調査テーマ | 高大接続の実態・課題をとらえる |
| 調査方法 | 郵送法による質問紙調査 |
| 調査時期 | 2013年11月～12月 |
| 調査対象 | 高校 校長 1,228名(配布数 2,500通、回収率 49.1%) *全国の全日制高等学校のリストより、無作為に学校を抽出。 大学 学科長 2,015名(配布数 5,060通、回収率 39.8%) *全国の学部・学科リストを利用し、その全てに配布。 ただし大学院大学、放送大学、通信制のみの大学、社会人が主な対象である学部・学科等を除いている。 |
| 調査項目 | 【高校・大学共通項目】大学入学者に求める力・高校で育成している力／高大接続の意識／今後の高大接続像／現在の改革に対する賛否 など 【高校】進学者の実態・課題／進路指導の課題／大学入学者選抜に対する考え方／新課程下の指導実態 など 【大学】1年生の実態・課題／入学者選抜の実態・課題／高大連携／入学前教育／リメディアル教育／初年次教育 など |

自由記述回答集について

Q：大学入試改革についてお聞きします。

現在、新しい共通試験が検討されています。このことについて、

- ・賛成・反対の理由
 - ・導入した際に考えられる課題
 - ・大学入試改革の望ましい方向性についてのご意見
- など、お考えのことをご自由にお書きください。

上記の設問に対して、高校は1,228件のうち686件、大学は2,015件のうち931件が回答。

以下には、代表的な意見（高校50件、大学55件）を内容によって分類し、掲載した。

実際には共通試験以外の部分に言及した回答も多く、リリースペーパーに掲載した各論に対する賛否のほか、

- ・高校教育への影響
- ・学校の序列化や格差拡大への危惧
- ・現段階での判断が難しい
- ・入試改革議論への要望
- ・大学教育への要望

などの点を指摘する声が多く寄せられた。

目次

大学入試改革に対する自由記述回答（高校）… 3

大学入試改革に対する自由記述回答（大学）… 9

※高校の学科名は、「今年度の募集定員がもっとも多い学科を1つだけお答えください」という質問に対する回答をもとにしている。

【高校】センター試験の維持を求める声

大学入試センター試験は良問も多く、生徒の一定レベルの学力を維持することに役立っており、これを大幅に改善する必要性を感じない。新しい共通試験によって低学年からの受験が可能となり私立中高一貫校が有利となる。また、学校行事の大幅な組み換えや部活動への参加減少が生じる。改革がありきとなっている。大学入試センター試験の良さも検証すべきである。（公立 普通科）

多様な基準というが、本当に公正な選抜ができるのか疑問である。高校・大学にとっても負担が大きい上に、多分指導教員による対策がなされるであろう小論文・面接で受験者の資質が判定できるかも疑問である。複数回の到達度テストも実際は学習内容の早期履修のできる中高一貫校を利することになり、本来の公平・公正な選抜にならない。是正すべき点はすべきであるが、現行の学力による選抜が最も客観的かつ公平・公正な選抜であり、格差を越えた有為な人材の発掘と社会の活力につながっていると考える。（公立 総合学科）

高等学校教育は部活動、学校行事も含めて人間形成につながっています。学力重視の点は理解できるが、高等学校の年間計画が大学入試達成度テストを中心としたものになり、大学進学を主に考える生徒と進学せずに部活動や行事を頑張る生徒といった二極化が起こることが考えられ、現行のままの大学入試制度をお願いしたい。（公立 普通科）

現在のセンター試験＋各大学の個別学力試験は公平性と学力を担保する観点からそれほど問題があるとは思えない。4年制大学進学希望者の大幅な増加に対応した大学の教育理念や教育内容の見直しや改革を後まわしにして学生確保を優先した推薦入試、AO入試、指定校推薦と学業成績全般の総合評価、人物重視などの美名のもとに入試のハードルを下げ続けてきた大学側に問題があると思える。各大学で求める学力水準に基づいた入試を手間を惜しまず実施すれば、本当に入学したいと思う生徒は少なくともその水準までは真剣に学習すると思う。最も大切な受験における公平性に疑念を生じるような入試改革には反対する。真面目に学習している生徒を翻弄するような入試改革はやめてほしい。（私立 普通科）

センター試験がこれまでに果たしてきた役割や実績に対する評価が見られない。60万人が受験し、大きなトラブルもなく、共通一次も合わせれば30年以上行われてきた試験をないがしろにする議論には賛成できない。人生の中に一回勝負、1点差で勝敗がわかる場面があってもよい。達成レベルで分けるならば、同一レベル内の受験生に公平な順位づけをする方法を先に示すべき。高校生活内での複数回受験などもってのほか。中高一貫校に利するのみで、部活動や学校行事にも影響する。高校卒業学力を測るのなら、センター試験で一定以上の点数を取ることを学力基準とすればよい。センター試験の点数はその生徒の努力の成果であることを認めてもらいたい。（公立 普通科）

客観的な学力を測るセンター試験の意義は大きく、名前がどう変わろうと残すべきである。高校在学中に複数回「達成度テスト」を行うことは、その煩雑さ以上に高校教育を画一化させ、普通科指向をさらに強め、独自の教育目標とカリキュラムを持つ専門高校や総合学科高校からの道を狭めてしまう。大学は、入試制度変更で高校教育を規定する（ゆがめる）だけでなく、各大学の個別試験にもっと労力をそそぎ、受け入れた学生をしっかりと育てることで独自の評価を高めていくべきだろう。時間はかかるうとも。（公立 総合学科）

【高校】センター試験の改善を求める声

現行のセンターを基礎レベルにして、それをもとに各大学で多面的な評価のできる二次試験を課せば良い。AO入試、推薦入試については、それを実施する大学が独自に問題を考えるべきである（魅力ある大学づくりが先である）。達成度テスト（2種類）に現行のセンター試験をかえることで高校生の意識や意欲が増すことは考えられない（日程、財政的負担、現場の煩雑さ）（公立 総合学科）

現センター試験を本試験、追試験、すべての生徒に受験させるチャンスを与えればよい。それで十分改革である。（公立 普通科）

達成度テストを導入するならば、センター試験を廃止するしかない。しかし、達成度テストを導入しても結局、今と同じような状況になると思われる。よって、混乱を招くより、今のシステムをもう少し単純化した方がよい。複数回実施は、反対。ますます現場の指導が大変になり、対応しづらくなる。高校は大学進学をさせるのも目的の一つであるが、部活動を含め行事などクラス活動、生徒会活動などを通して得ることも大きい。人間的な成長、人間力を養うためには学習以外の教育活動が必要。そういった活動の時間が今でさえなかなか厳しい現状なのに、これ以上煩雑になれば本末転倒。現場が混乱せず、じっくりと腰を据えて学習指導と人間育成ができるようになってほしいと願っている。（公立 普通科）

現行のセンター試験だけでも学校行事等に多大な影響がある。これが年に2度、しかも2年生になると行われることとなり、更に会場が高校となればとても行事が立て込むことになり、混乱する。そもそも人間の能力をペーパーテストなどで把握できると考えるところに無理がある。そうしたもので評価できるのは実施教科のほんの一部の能力であり万能のテストができると考えることが間違っている。現行のセンターテストを更に発展させて到達度テストへ近づけることが良い。（公立 普通科）

【高校】センター試験の廃止を求める声

現在のセンター試験の廃止に賛成する。開始当初よりも難易レベルが高くなりすぎた。高校教育がセンター試験、大学入試のためだけのものになっている。またこの選抜方法自体が現在の社会情勢に合わないものになっている。共通に実施する「達成度テスト」を科目ごとに基礎レベルを複数回受験できるようにし、あとは大学の個別選抜にゆだねるような方法が良い。大学入試が初等、中等教育機関の指導にも影響を及ぼす。早急に改革してほしい。（公立 総合学科）

基本的には現在進んでいる大学入試改革に賛成します。現行のセンター試験は知識偏重、年1回しか受験できず、新しい共通試験は学力到達度テストであり、複数回受験可能。私立大入試では定員割れや易化が進み、学ぶ能力が問われ、それが日本の国際競争力低下にもつながっていることから、今日の大学入試改革については賛成します。面接やボランティア、学習履歴などによる評価をどうするのか、選考方法の多様化に伴う受験生と各大学の負担を軽減することが早急に示されなくてはならないと思います。（公立 普通科）

センター試験廃止は大賛成。達成度テストが機能すれば、早期からの学習習慣獲得に一定の効果はあると思われるが、一方では中高一貫校の一人勝ちにならないよう願っている。共通入試を基礎とした上で各大学が多面的な評価を加えて実施する入学者選抜を強く望むと共に大学卒業の敷居を上げるべき。（公立 普通科）

年に1回だけのセンター試験を廃止し、複数回受験できる「達成度テスト」への導入に賛成です。ただし、高校側の負担がどの程度増加するのかがわかりづらく、心配しております。（公立 専門学科（商業））

【高校】達成度テストに賛成する声

達成度テストについては賛成である。一度の試験ではなく、複数回の受験機会を与えることで、学習に対する目標とモチベーションを保つ事ができるようになると考えられる。学力とはある年齢での知識量を計るためのものではない。個々人によって学ぶペースもあるのは当然であり、いかに目標をクリアさせていく力（学び続ける力）を身につけさせるかが大切だと考えている。その意味では長い目で見た場合の学力を付けるには、達成度テストを使用するのは一つの良い方法だと考えている。（私立 専門学科（外国語））

達成度テストの複数回受験は、是非とも（危機管理の面からも）必要と考える。阪神淡路大震災の時、センター試験直後の地震だったのでまだ良かったが、直前に地震があったらとてもセンター試験どころではなく、勉強道具がつぶれた家の中に残ったまま、避難所生活をしている受験生が2週間後の追試験に準備万端で臨めるわけもなく、受験できないか、不本意な進学を強いられる結果になると予想されます。よって2ヶ月程間隔をおいて、3～4回受験可能としておけば不慮の事態への対応が十分可能かと思えます。（公立 普通科）

日常の学習の成果が複数回のテストで測られるのであれば、継続的な学習姿勢の向上、意欲の向上につながると思うので、賛成である。試験の科目が特定のものにならないよう、総合的な学力を測る内容が望まれる。生徒の思考力、判断力、表現力、意欲などを育み、高校での学びを向上させる方向であってほしい。（公立 普通科）

達成度テストについては、教科（知識）偏重ではないこと、センターのように機会が1回限りではない点は良いと思う。一方で、受験準備が高校生の負担にならないかが懸念される。大学入学資格として、従来の教科偏重ではなく、論理的思考力、表現力、問題設定、解決力なども評価の対象にするべきだと考える。（私立 普通科）

賛成です。1回のセンター試験で合否が決まるよりは高校時代の努力が報われると思えます。基礎レベル「達成度テスト」と単位認定の関係も気になります。（公立 普通科）

高校教育の基礎学力の保障という意味合いから基礎レベルの達成度テスト導入には賛成である。高校の質の保障は必要でこれに合格できなければ卒業できないシステムにしても良いと思う。そのためには複数回チャレンジできる必要がある。発展レベルのテストについては特に必要性を感じない。従来のセンター試験方式で良いし、複数回受験の必要も感じない。一発勝負の厳しさもあって良い。（公立 普通科）

探究する力や創造性を高めるなどのため、現在進行中の入試改革には賛成です。高校教員がそのためにふさわしい知識・スキルを学ぶための研修についても検討が必要であると考えています。（公立 専門学科（その他））

複数回受験ができる達成度テストの導入には賛成である。生徒の学力の定着、向上に役立つと思う。課題は大学側にある。高大連携の視点で連携をしていきたいが、大学側の改革ができるだろうか不安である。（公立 普通科）

【高校】達成度テストに反対する声、課題を指摘する声

1点刻みではないテストの結果と面接等による可否の判定に客観性が担保できるか。面接が試験に導入されれば、高校側は面接練習を行い、個性ある生徒の見極めが難しくなるのでは。(公立 普通科)

反対。達成度テストの公表により、高校がさらにランク分けされ、高校の特色などが無視されてしまう(高校受験で)。基礎学力をつけるべく、授業研究や補習等を行っている中で、さらに部活動や行事を通して全人教育を目指して取り組んでいる現状があり、年間行事計画やそれに載っていない面談等を考えると現場の教員は多忙である。改革を行うのなら、現状を把握して、まずスリム化を行い、そこから本質的な改革を行うべきである。(公立 普通科)

反対。センターテストですら良問であるにもかかわらず、マークシートということで、高校の授業が知識の詰め込みやセンターテスト対策に変容した。各々の大学が必要と考える学力は各大学で責任を持って判断し、学生をとってほしい。達成度テストが導入されるとそれに合わせたカリキュラム作りや学校行事の見直しをせざるを得ない。これ以上高校の授業に大学入試対策を入れないでほしい。(公立 普通科)

達成度テストが複数回受験可となると、高校3年制の2学期ごろから落ち着いた学習ができなくなる可能性がある。生徒は、その試験に対する対策を立て、学習することで本来すべき高3での学習内容が途中で終わってしまう。今でさえ高3は2学期までしか落ちていて学習できていない。大学は、入学に際し、間口を広くし、卒業に対する厳しさを全面に出すべきである。そこが担保できれば、1点刻みにならないテストの導入も活用できるだろう。(私立 普通科)

現在一番問題となっているのは推薦やAOで入学する学生の学力である。学力試験を課さなければ学力がないのは当たり前ではないか。入学させておいて学力がないと高校側に文句を言うのは筋違いではないか。学力がないと分かっているならば入学させなければよいかの話。達成度テスト+小論・面接の組み合わせの大学入試では益々学力低下をきたし、公平公正な入試ができるとは思われない。また、複数回受験は高校の部活動の衰退をまねく。再考願いたい。(公立 普通科)

過年度卒業生にとっては、受験がしづらくなるのではないかと(特に社会人や大学卒業者)。複数回数受験によって1年間の進路指導が平板なものになり、生徒の能力向上にとってマイナスな面が出てくるのではないのでしょうか。極端に言えば毎回この達成度テストに振り回され、じっくり自分の力を付けたり長期的視野に立って計画を練るといったことが困難になるものと思います。(私立 普通科)

達成度テストの導入によって、一定の点数を取った生徒は、それ以上の目標を持たずに、そこで勉強を止めてしまう可能性が大きい。高校生を見ていると、努力して一般入試で大学に入ろうとする生徒よりも、AOや指定校、一般入試で適当なところで妥協しながら無理せず大学に行きたいという傾向が強い。それ故、達成度テストを複数回導入しても、生徒たちがさらに上を目指して頑張るという構図は当てはまらないように思う。(公立 普通科)

希望参加と伝え聞かすが、AO入試や推薦入試、あるいは就職にも使用する可能性があるとなると、多数の学校が参加せざるを得なくなると思われる。そのとき、学校ごとの結果の公表が求められ、学校の序列化に拍車がかかることはないか心配である。導入された場合、複数回の受験が可能なのはよいが受験対策の前倒しによる高校生活への影響も心配である。(公立 総合学科)

達成度テストが在学中複数回実施されると高校生活が受験一色になってしまう。(公立 専門学科(農業))

全体としてやや反対の意見である。達成度テストの導入は複数回受験のこともあり、高校の学習進度や行事予定に大きく影響を与えられると考えられる。また、結果の段階別表示は段階の境界で1点差のレベル分けが行われることになり、点数主義の解消にはならないのではないかと考える。(公立・普通科)

【高校】専門学科や就職者が多い高校の立場をふまえた声

専門高校における学力保障と専門校の深化のバランスを高校教育の中でどのように考えて、教育課程の編成、実施をすすめるかが難しいと考える。専門的な内容についての学びをどのように評価するかによって高校での学習への意識、意欲に変化が生じる可能性がある。現実には本校生徒は他からどのような評価を受けようが、今学びたいこと、今学んでいることについては満足している。（公立 専門学科（農業））

専門高校として主に大学工学部に進学を希望している生徒を指導する立場で考える。達成度テストの基礎レベルでは国・英・数などの基本教科については単なる知識だけでなく応用力や思考力等の内容も加え、バランスのよいものにしてもらいたい。発展レベルでは大学教育や研究に対応できる能力を確認するものであるから、専門性の高い資格取得や検定合格の実績を大いに取り入れてもらいたい。各大学で実施される独自の試験では面接や実技試験で専門の高い能力を検証できるシステムにして、多様性の高い、丁寧な選抜方法で実施してもらいたい。（公立 専門学科（工業））

高校進学時、基礎学力の低い専門高校の進学対応を考えなければならない。達成度テストでは普通教科の履修単位が少なく、不利であるので一部専門科目での代替や大学学部分野に關係する専門科目を受験できるような配慮をしてもらいたい。（公立 専門学科（商業））

議論が全日制普通科高校が中心となることは、しかたがない部分があるが、専門高校に導入することとその効果の検討が十分でないように感じる。入試改革が高校の教育課程の実施内容に強く影響するだけに、例外かもしれないがより広い対象（学校）を考えてもらいたい。現在のセンター試験、個別試験の制度はそれほど悪くないと思う。（公立 専門学科（工業））

高校では各校が地域の特色や学校の特徴を踏まえ教育課程を編成している。また、生徒の状況や生徒、保護者のニーズを把握し、教育活動を実践しており、教育活動は多様化している。よって、大学入試改革においては基礎的な学力の把握はもとより、学校の特徴として生徒が3年間学んできた成果の両方を把握する入試制度が重要と考える。（公立 専門学科（商業））

本校生にとって大学は遠い存在。しかし、選択肢が増えることはまちがいが無い。達成度テスト（基礎）が就職につかわれると教育課程の再度見直しをせねば対応できなくなり、人的支援をあつくしてほしい。（公立 普通科）

専門高校においては、大学入試で普通高校に比べ様々なハンデを抱えている。専門高校こそ、感性豊かな人材が埋もれており、何か一つきっかけさえつかめば大化けできる。このような生徒達を引き上げる、多面的な能力をはかる入試や制度をお願いしたい。（公立 専門学科（農業））

【高校】改革の意義を問う声、議論への要望

情報が断片的に活字でしか伝わってこない。シンポジウムを開くなどして一方通行でない意見交換をすることが必要。(公立 普通科)

現在高校に多様な生徒が入学する状況で「達成度テスト」はどのような意味を持つかわからない。新しい2つのテストは大学、企業側からの発想のもとに生まれてきており、多くの高校の現状からはかけ離れた議論である。また、発展的な力は基礎的な力の上に身につくものがある。多面的な評価の公平性はどのように担保されるのか疑問である。(公立 普通科)

基礎レベル・発展レベルの2種類が検討されていますが、現行のセンター試験にとってかわるほど有益なものなのか正直わかりません。また、達成度テストについては複数回受験の可能性が示唆されており、現場としては複数回受験により学校行事等がタイトな日程になるのでは…?という不安もあります。(公立 専門学科(理数))

①センター試験とどう違うのかよくわからない。センター試験の何が問題なのかもっと整理してから方向性を出してもらいたい。②各大学が欲している学生像を明確にしその為の入試を考える必要がある。(公立 普通科)

「達成度テスト」の導入により最も懸念されるのは「入試の客観性や公平性が保てるのか」という点である。未だ十分な説明が下りてきていないため理解しがたい。また、「複数回実施により教育計画を大幅に変更する必要があるのでは」という疑問も残る。生徒への負担増を気にかけざるを得ない。大学入試改革の前に大学・高等学校、その他教育機関の位置付けをあらためて明確に定義し直す必要があるのではないか。(公立 普通科)

大学入試改革が何を指し、どこへ到達点を定めているのかが見えてこない。高卒の53.2%が大学へ進学する時代。大学の存在意義は学生確保のためではなく、将来の人材育成でなければならないと思います。そのためには中高大連携のキャリア教育の成果を問う試験でなければならない。(私立 普通科)

大学入試改革については、その問題点が国民に広く認識されていると思えない。現在の制度の問題点を明確にし、それに対する対策を時間をかけて審議し、理解しやすい形式を考え実施に向かって検討すべきと考える。(公立 普通科)

入試改革を行う事で生徒の進路選択に幅ができるのは良いかもしれないが、逆に明確に目標を立てにくいということになっては生徒に不利益になってしまう。多様な能力をどう評価し、合格ラインをどう設定するかなど、受験生に分かりやすい内容にして頂きたい。(私立 普通科)

新たな共通試験には賛成だが、達成度を基礎・発展どのレベルまでで評価するのか高校現場の意見を大学入試改革の委員会はより多く聞くべきだ。今のままでは大卒のみで具体的なイメージのみを多様な形で論議しているにすぎない。(公立 普通科)

はっきりしないのは教育振興基本計画の中の「学習到達度テスト」と教育再生実行会議が示した「達成度テスト」がどのような関係の中で議論されているのかということです。多様な状況が広がった学校教育の中では入試制度だけではなく、高校教育と大学教育双方の教育の中身に対する具体的方策を検討すべきだと考えます。(私立 普通科)

高校での学習の定着状況を確認する意味での達成度テストについては、一定の必要性を感じる。大学入試への活用となると、基礎レベル、発展レベルをどう扱うのかなどの課題やセンター試験が変更されるたびに対応に追われてきた学校現場と同じようなことになってはならないと強く感じる。そのため、高校で学習指導要領の目標をふまえた指導を一層充実できるようなテストを望む。(公立 専門学科(音楽・美術))

【大学】入試制度改革に賛成する声

複数回の達成度レベルを見る試験によって、高校生は1発勝負の入試から解放され、落ち着いて基礎学力を習得できる。大学は共通入試を基礎として自学で必要な科目に重みづけをすればよい。入試のハードルは下げて入学定員も著しい超過以外は管理せず、まず入学させる。ただし、単位修得や進学は厳しくして、半数強くらいしか4年で卒業できないくらいの学習を大学生には求める。(国立)

賛成です。1回の入試では、運に左右される割合が高い。(国立)

「達成度テスト」の複数回受験に賛成です。最も合理的・効率的と思われるからです。大学入試を改革することは大事だと思いますが、それ以上に、大学進学以外の多様なキャリアパスがあること、そして、大学以外のキャリアパスを認め、かつ受け入れることのできる社会に変えていくことが最も重要だと思います。(国立)

達成度テストを資格とし、各大学がその上に多面的な評価、もしくは現在のような二次試験を行うという形がよいと思う。論理的思考力や表現力は書いて論述することではかることができるので、その力を見るべきだと思う。達成度テストは複数回受けられて、それが受験資格になる形がよいと思う。(国立)

多面性と複数回は望ましいと言えますが、評価する側の訓練を伴わないと意味ありません。一定レベルの評価を保つ方法が鍵だと思います。(国立)

賛成です。学生は公式の理解より覚えることに集中し、その導出過程を理解しようとしません。大学の勉強でもその傾向が抜けないため困っている。今回の改革で基礎レベルは覚えることが中心になると考えられるが、発展レベルではより深い理解を求めるような問題にしてほしい。また、我が校は工業高校から推薦入試で受験する学生が多数いるため、工業高校からの受験生にも使えたら良い。(公立)

高校生が自分の学習の達成度を客観的に評価し、真の学力をつけるための自己努力を支援する工夫であれば、達成度テストの導入を歓迎します。重要なことは、若いうちに自分の能力を最大限に引き出す努力をする経験をさせてあげることで、他との比較や相対的な順位に集中させない工夫が高校教育には必要であると思います。学力の絶対評価をめざすべきです。学力のレベルが達成度テストで担保できるのであれば、少なくとも推薦入試では、意欲や論理的に考える能力に焦点を当てた選抜が可能になると思います。(公立)

達成度テスト導入には賛成ですが、それが高校生の負担になってはまずいと思います。「基礎レベル」の達成（それを何点・何%にするかが課題ですが）を前提に「発展レベル」も「基礎」を単に難しくしたような出題では意味がないと思います。思考力・課題発見・解決能力を見ることができると良いのですが。ただ、いずれにしてもそれが「目的化」してしまう恐れがあり、そこで入学しても「意欲」を如何に持続させるか、大学にとっても難解な課題があると思います。(私立)

賛成→本当の基礎学力のレベルが把握できるようになる。課題→実施主体の問題(会場、担当者等)。方向性→きちんとした「到達度」が測れるようにする試験内容。本人の「文化資本」が影響しないような選抜方法。(私立)

賛成：達成度テストを導入したうえで、各大学独自の入試制度を確立したらいい。課題：達成度テストを導入することで（2種類）大学の序列ができてしまう。どのような選択をしてもできると思う。方向性：研究、教育、社会貢献をバランスよくやり、学生の志願者を増やすための方向性を考えること、卒業してからの人生設計を示すことが必要である。(私立)

高校生が自己の学習の達成度を知るために実施する事は望ましいが、レベルを2種類設定すること、推薦入試への活用は慎重に考えた方がよいと思います。テストのレベルを2種類に分ける事により、大学間格差が拡大し、いずれ就職活動等にも影響を及ぼし、学習や就業機会に不平等が生じる可能性があると考えます。(私立)

高校で行う「達成度テスト」と大学で行う推薦入試と一般入試の二次試験で十分。現在のセンター試験は廃止でよい。大学生として必要な基礎学力は基本的に高校で担うべき。(私立)

一定の学力水準を維持するにはセンター試験はあった方がよい。「達成度テスト」は高校のカリキュラムが実際にどの程度身につけているか客観的に把握できるものがあった方がよい。現状では推薦入試の際に調査書を参考にしているが、評定平均は学校により大きく異なるためほとんどあてにならない。学校間格差を含む評定平均よりも、客観的な「達成度テスト」の方が学生の学力レベルを把握する際に有効だと思う。(私立)

1回のセンター試験受験では、生徒の高校での達成度を正確に把握することは難しい。複数回のテスト、あるいはレベル別のテスト実施により、生徒の学力レベルを把握する方が好ましい。(私立)

私学にとってセンター試験利用のメリットは少ない。達成度テストに各大学独自の入試(AO、推薦、一般)の結果を踏まえた入学者選抜の方がより望ましい。(私立)

AO入試と推薦入試で定員の半数以上を合格させている現状から、大学入試改革の目的である「人物本位」の選抜には概ね賛成である。志願者減が続く中でも本学科では面接を重視し、大学でデザインを学ぶ目的が希薄な受験生は不合格にしている。むしろ問題は初等中等教育、高校における造形美術教育が軽視されていることである。教科学力以外で大学にチャレンジできる制度に変えると同時に、高校教育においても制度と連携した多様な可能性を経験できる機会を増やすべきであろう。(私立)

現在のセンター試験は一発勝負的なところがあり、受験生に負担が大きすぎる。学習成果や論理的思考能力、判断力、意欲、性格など、多面的に通年で評価できる試験制度に移行した方がよい。あるいは上記のものと一発勝負的な試験を選択的に併用してもよいかもしれない。いずれにせよ、適正な選抜のための大学の負担増、ノウハウ、人材不足が懸念される。(私立)

現在のセンター試験で、学生の知識と応用能力を評価できているのか疑問であり、高校教育の評価を達成度で大きくとらえ、進路に応じた大学側の評価を加えた自由度のある入試方式の方が、大学での学生の能力を引き出せるのではないかと考える。全ての科目に優れた学生は数少ないのであって、個々の学生の能力を進路に生かせる入試改革が望ましい。(私立)

【大学】改革の意義を認める声

定評の得られる方法が確立していない状況において、改革を論じることには一定の意義があるという意味で、消極的に賛成である。テストで点を取る技術より学問に関心のある者がより多く入学できる選抜方法の開発が望まれる。(国立)

現在定着している入試方法はある程度維持すべきと考える。ただ、これからの日本を支える国民に求められる能力は、知識中心の学力ではなく、入試改革で求められる人間像のあり方を尊重しつつ、改革に努める必要がある。この度の改革提案の意義は認められる。(国立)

大学をとりまく諸状況(全入時代、社会の要請)が変わってきているのですから、当然入試改革もなされていくべきであると思います。今回の改革がベストであるのかどうかは判断できませんが、学力を多様な尺度ではかり、各大学のアドミッションポリシーに合った学生を確保することにつながる改革であるとするならば、大いに賛成します。(私立)

【大学】入試制度改革に反対する声、課題を指摘する声

反対です。1点刻みの成績で合否を決めるのが最も平等だと思います。「段階別」や「多面的評価」は、聞こえは良いかも知れませんが、それを合否につなげるプロセスが不明瞭になり、明朗性、平等性が損なわれることになると思います。(国立)

反対。学力が一番重要。(国立)

公平な選抜ができないのではないかと思うので反対。(国立)

達成度テスト導入のメリットが見えないし、十分に説明されていると思われず、賛成できない。基礎的(発展的を含め)学力を問うための試験としては、センター試験が十分に機能していると思われ、高校の学習レベルをみる上でも問題ない。達成度テストの複数回導入は、高校の予備校化を助長し、発展と基礎の階層化は、高校や大学のさらなる序列化を進めることになる。入試改革の中身や目指すところは、大学によって大きく異なる。最も重要なのは、大学自らが考え、改革に取り組めるような時間的・人的・資金的環境をサポートすることであり、一律な変更を改革として押しつけることではない。(国立)

定められた入試当日に力を発揮できることも能力の1つと考えられる。(国立)

段階別評価について、入試では順位を決めなければ「定員」を満たせない。段階別ではどうやって順位を決めろというのか。「達成度テスト」であれ、「人物評価」であれ、結局は高校は入試のための教育方法を取り入れるしかない。状況は変わらないし、入試のための「人間教育」になってしまうであろう。一定の学力を必要とする医学部では、「達成度テスト」「人物評価」では選別できない。社会に優秀な医者を提供できなくなる。教育には「安定」が必要であって、「改革」は生徒や学生に「混乱」をきたす。教育においては、「安定」は決して「停滞」ではない。「改革」よりも、より良い「安定」を目指すべきである。(国立)

センター試験実行にあたって全国で費やされる膨大な労力を、新しいが同意味な試験に置き替えることは無意味だと思う。各大学は各々の教育目的に沿った試験を実施していることから、その中で基礎レベル・発展レベルの双方の学力を判断可能なはずであり、全国的に一つの学力判断を基準とすることに、社会環境の変化からの違和感を感じる。(公立)

反対の理由として、共通一次・大学センター試験のいずれも高校生の学びの時間を削ってしまっているように思います。達成度テストも同様に感じられます。大学入試で文系・理系両方の科目の十分な試験を課すことが高校での学びの充実化につながっていたと思います。導入することになれば、どのようなレベルの学力を持った学生が入学することになるかわかりませんが、教育者としては一歩でも二歩でもステップアップさせるべく努力するのみです。また、結果を見て入試対策を検討することになると思います。(私立)

段階別表示では入試選抜に使えない。そうなったら、このテストは入試に使わない。基礎レベルは大検にすればよい。教育の問題を大学に全て押しつけるのは間違っている(大学なんかに行かなくても成功できる社会であれば、高校までで自ら学ぶ力を身につけるはずである)。大学入試をいじっても、適応するだけであって、意味がない。大学は学問を教授するところであって、「人間力」を中心に選抜するのはナンセンスである。(私立)

段階別にしたことによる不公平性があること、ボーダーラインの学生を選抜する基準に使えなくなることが予想されることから、実施しても選抜の資料、判断材料としては使用できませんね。達成度テストの複数回受験は高校生活を破壊すると思います。2年生頃からすでに部活もひかえる…ということも起こるのではないのでしょうか？高校生の負担が増すわりに、大学では選抜で使えないものにならないことをして何になるのか？反対です。(私立)

大学の序列化が更に進むのではないかと危惧している。また複数回の達成度テストなどは学生の学力の把握という点では評価できるが、実施する側の実務負担増大が気にかかる。以上の理由によりどちらかというと反対である。(私立)

受験機会が増えること自体は受験生にとって有利に働くとは思いますが、十分な学習を経ないままの受験では入学時の学力が把握できない。結果の段階別表示は論外であり、学力試験として意味をなさないと思う。実際に導入された場合、問題の難易度が低下し、結果の二極化がおこると思われる。複数回の受験により、受験生、高校教員、会場になるとすれば大学の負担は過大となる。多面的な評価は重要であるが、あくまでも基礎学力あつてのものであり、入学試験の中心は1点刻みの学力試験であるべきと考える。(私立)

私学では学生確保(定員確保)に大変な苦勞をしている。新たな共通試験で、国公立大学、有名私立大学に生徒が流れていかないか心配である。(私立)

センター試験がベストな選抜試験であるとは言えないが、国立大学では独自試験を課すことで目的の選抜ができていていると考える。教育をする上で一定以上の学力があることは必須であり、定量的ではない多面的な評価を行うことは、質の向上にはつながらず、教員の手間が増えるだけである。現在の1回のセンター試験であっても、問題作成の労力はかなり大きいですが、複数回となると作題者の負担は膨大なものとなり、非現実的である。また試験場間の格差がないよう公平な試験環境が必要であるが、現在のセンター試験の1本制を複数回確保することは難しいと思われる。(私立)

センター入試がようやく広まり定着したところである。高校生が制度改革により戸惑う。高校の指導内容、教科書が異なり差がある中での実施は、生徒の負担が増加し、差が広がるのではないかと。人との関係力が培われないように思う。(私立)

現在のセンター試験で入学者の選抜がうまくいっていると思われるので、この制度を特に変える必要性を感じない。よって新しい共通試験の導入にはどちらかといえば反対である。新しい共通試験では1点刻みの能力がはかられないので、ボーダーレベルの受験生の力が正確にはかれなくなるので問題である。(私立)

【大学】多面的な評価を懸念する声

個人的には反対。学生(受験生)の側から見れば、どんな努力をすればよいのか不明であり、不合格=多面的にダメという評価となるであろう。18才の青年達にその様な評価を突き付ける事になるが、それは国の将来にとってよくない!大学側では、この上さらに複雑な入試を行う事になり、その上で上記の様な重い判断をする事は、現在の状態では不可能である。大学生の教育も結果として疎かになる可能性が高い(研究力も下降する)。(国立)

「人物重視」の入試が叫ばれているが、内面に立ち入る試みが良いのか疑問に感じる。極度の客観主義は排すべきだが、明確な基準が設定できれば逆に点数主義は悪いとはいえない。むしろ内面統制を企図することに危険性を訴えるべきであろう。強い信念をもったの考えである(心理学者として)。(国立)

「達成度テスト」だけならかまわないが、「人物本位」という点が問題である。「人物本位」という面で大学に合格しなかった場合、浪人の一年で「人物性」を変えることは無理であり、人格を否定されたともいえる。「人物性」の判断は困難である。その「人物性」を上げるための塾や、また擬似ボランティアなどがはやるような気がする。(私立)

【大学】推薦入試・ＡＯ入試への言及

賛成の理由…ＡＯ入試や推薦は基礎的理解力があれば、人材に多様性を加味した選抜ができるので、基礎レベル試験には賛成である。その分しっかりと入学後に教育し、成績基礎を今よりも厳しくしたほうがよい。反対の理由…発展レベルのテスト自体は良いのですが、大学によって独自の試験を課すことになれば現在のセンター試験と変わらないものに結果するように思われる。
(私立)

賛成の理由：入学前教育、リメディアル教育、初年次教育などは本来高校教育の段階で身につけておくべき最低限の学力を、きちんとつけてこなかったことによる大学側のやむを得ぬ取り組みである。今後、低い学力の高校生が入学してくるとますます大学側は高校教育の補習授業のようなことを行わざるを得ない。従って達成度テストによって学力を把握した入試対策（ＡＯ、推薦）が行えることから賛成である。(私立)

賛成。高校時代の達成度をチェックすることは重要と思われます。基礎学力がないと応用もきかないため必要である。ＡＯ、一般入試制度のあり方をどうするかが入試改革の柱になって欲しい。
(私立)

現時点では、定員確保のために推薦・ＡＯ入試を実施しているが、受験生の基礎学力を判断するのは難しいので、「達成度テスト（基礎レベル）」が推薦及びＡＯ入試で活用できれば、本学科で求めているレベルの学生の確保につながる。(私立)

ＡＯ入試が本来の姿とはかけ離れてしまっている。推薦も含めると基礎学力不足の学生が散見され、コミュニケーション能力も含めたトータルな高大連携という枠組の中で大学入試改革を考えていくべきである。(私立)

「達成度テスト（基礎レベル）」の推薦・ＡＯ入試への活用により、高校での学習意欲の向上に役立つと考える。(私立)

【大学】賛否の判断がしづらいという声、議論への要望

「達成度テスト」については現時点では「どちらともいえない」としたが、評価者及び評価方法について、不明な点が多いからである。確かに1点きざみの教科学力結果は本学に必要な人間力の把握には不十分なので、廃止を視野に入れることには賛成。それよりも「小論文」や「面接」でどのような評価方法が適切なのかについてFDが必要。(国立)

新しい共通試験には反対というより、これまでの入試の総括が必要である。アメリカのSATをモデルにしていると思われるが、これまでの日本の入試の良かった点もあるわけで、議論があまりにも少なく、もう少し丁寧な議論が必要。入試現場の意見を吸い上げてほしい。(国立)

制度の改革をしっかりと高校生に理解してもらうことが何より重要です。また、達成度テストなどの創設にあたっては、大学側と高校側が十分に連携をとることが必要になります。試験の公平性をどう保つのかなど高校側と丁寧に論議しながら進めていくことが求められます。(公立)

現在のセンター試験で今どんな大きな問題が生じているかがよくわからないので、廃止についてはどちらとも言えない。どんな試験制度でも問題はあと思う。入学試験を絶対的なものとして捉えず、他の種々のものと相対的に捉えるように世の中の考え方を変えていくべきだと思う。(私立)

簡単に反対賛成は言えない。全ての大学に一律に基礎学力テストで合否を決めるのは無理。もっと思考力を試す問題を課すのが必要な大学もあれば、基礎学力レベルをまず身につけて入学すべき大学もある。ただ、入試は各大学が課すものとし、それ以前の高校卒業資格とするのなら賛成。(私立)

中高一貫教育の現状分析も同時に行い、高大接続教育の実態について、検討母体はさらに細かい分析を進め、社会に公表し、政策を考えるべき(検証を十分に行い、問題点を明らかにすべき)。志願者確保に課題を持つような、特に国公立大学の維持・存続を議論の目的にすべきではない(そうでなければよいが)。(私立)

現在検討されている改革により、高校生が読む、書く、論理的に考えるといった基礎的な学力を身につけることにつながるのか疑問である。高校までの教育で大学で学ぶ上での基本的な力が身につけているかを判断することができる大学入試改革が求められる。(私立)

改革の目的はどこにおいているのか。高校生(受験生)にただ不安を与えているようでは意味がないし、現状把握、分析が十分とは言えない。センター試験のなかに達成度の度合を知る内容がすでに含まれているわけだし、システムの安定化こそ改革に反映されるものと考え。(私立)

なぜ、センター試験を廃して、達成度テストに変えるのか、明確な理由がわからない。達成度テストの「基礎レベル」と「発展レベル」の内容等についての情報が不足している。この2種のテストの活用について不明である。受験生に過剰な負担を強いることにならないか?以上の理由から、賛否を判断できない。(私立)